

成果の説明書

(氏名)嘉瀬井恵子	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項 (教育活動)</p> <p>1) 担当講義：環境デザイン、初年次ゼミ、グループ研究1、基礎演習</p> <p>1 年生が履修する初年次ゼミと統計の講義を受け持つ教員との連携により、基礎教育・初年次教育との接続を従来以上に明確化させ、文献調査や理論、成果の発信を意識的に行うことを検討するワーキングを複数回、実施した。</p> <p>2) 演習（ゼミ）活動</p> <p>本学着任1年目の教育・社会貢献活動の柱として、高崎市立中央図書館との「本を介した学び」をテーマとした共創活動を始動した。本取組みは、学生が公共図書館の蔵書を活用し、市民の読書体験を豊かにする特集コーナーを企画・実装するものである。核となるのは、学生による合計600冊に及ぶ大規模なテーマ選書である。学生は「美」自由と正義」「地球環境・地域環境」といった抽象度の高いテーマに対し、「大学生ならではの視点」からアプローチを行う。さらに、選書された本との対話を通じて、学生自らが導き出した「問い」を可視化した冊子「百問本（ひゃくもんぼん）」を制作し、館内で配布する。2026年8月から9月の開催期間中には、学生が実際に書架での案内役を務め、来館者と本を介した直接的な対話を行う。自身の制作物や選書が市民の思考にどのような変容を促すかを学生自らが観察し、その波及効果を検証するスキームを構築した。</p> <p>公立大学と公立図書館が接続し、学生が「知の仲介者」として地域社会に直接関与することは、実社会での課題解決能力や共創の作法を養う極めて実践的な教育機会となっている。現在は新3年生10名を中心に次年度以降の継続的な活動を見据えた体制を整備しており、地域に開かれた双方向の学びのモデルとしての定着をねらいとする。</p> <p>(研究活動)</p> <ul style="list-style-type: none">研究代表者：科学研究費（若手）「戦前戦後の農村における生活改善普及事業の影響に関する研究」20234月 - 20253月研究代表者：白山ユネスコエコパーク協議会「白山地域における伝統の行事食「ほんこさん料理」を通してみる生物文化多様性—大野・荘川エリアを中心として」2025年度 <p>(学会発表)</p> <ul style="list-style-type: none">嘉瀬井恵子「農村女性の継続的な役割発揮による行事食の継承」第73回日本農村生活学会 2025年9月28日嘉瀬井恵子「白山麓地域の報恩講料理における市場を介さない食材の実態」2025年度和食文化学会第8回研究大会 2025年8月10日嘉瀬井 恵子「戦後における今和次郎の「結婚」への視線と北陸の実際」第20回社会デザイン学会 2025年6月29日 <p>(論文等)</p> <ul style="list-style-type: none">嘉瀬井恵子「生物文化多様性の観点からみた報恩講料理の意義—石川県白峰地域を事例として」（論文）『和食文化学会』（7）掲載決定嘉瀬井恵子「地方消滅からの脱却：持続可能な地域をめざして」（書評）日本地域	

2 その他の事項

(講演活動)

- ・ 「報恩講料理に学ぶ:暮らしと共に」(主催:勝山市にここ地域交流会事業) 2026年2月6日
- ・ 「白山ユネスコエコパークエリアのほんこさん料理に学ぶ 一暮らし・植生・仏教の交わる場所」第6回白山ユネスコエコパーク・地域づくり交流会 2025 (主催:白山ユネスコエコパーク協議会) 2025年11月18日

(社会活動)

- ・ ラジオ高崎「ラジオゼミナール」収録

3 次年度以降の計画・抱負

次年度は、1. 重要事項(教育活動)で述べた高崎市立中央図書館との共創を「社会実装型の教育・研究モデル」として確立することを目指す。夏季期間の実施成果を基に、2026年10月に開催される国内最大規模の「図書館総合展 2026」(みなとみらい:パシフィコ横浜)において、ゼミ生による成果発表を行う。学生自身の言葉で、公共空間における「問い」の有効性とそのプロセスを発信させたい。

並行して、本プロジェクトを通じて得られた知見を、教員個人の研究業績として「公立大学と公立図書館による共創の意義と課題」をテーマとした学術論文にまとめ、学会等で発表する計画である。学生による実践的な発信と、教員による理論的・学術的な体系化を両輪として進める。

新3年生に加え、後期から合流する2年生10名以上を含めた総勢20名超の体制で本取組みを継続し、高崎モデルとして地域に定着させたい。大学と地域社会の持続的な知の循環を支えるハブとしての役割を全うする所存である。